

別紙様式 1

教科等研究会（小学校国語部会）
平成30年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

「分かる・できる」「楽しい」国語科の授業づくり
～付けたい力と手立てを明らかにして～

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日	人数	場所	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者
5/24	41名	広安小	9/21	小坂小	五反田美智乃	11/6	広安西小	荒木優作	1/24	乙女小	藤本智美

3 研究の概要

(1) 研究の内容

① テーマ設定

本年度の郡教科等研究会全体テーマ「児童一人ひとりが輝く「分かる・できる」「楽しい」授業づくり」を受け、小学校国語部会では、研究テーマを「「分かる・できる」「楽しい」国語科の授業づくり」として研究を進めていくことにした。また、本テーマの研究を進める上で、身に付けるべき具体的な国語の能力と手立てについて授業研究会で検証していくために、「付けたい力と手立てを明らかにして」をサブテーマとして設定した。国語科において、付けたい力と手立てを明らかにして「分かる・できる」「楽しい」授業づくりをしていくことがねらいである。

本テーマの授業づくりには、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が不可欠であり、そのためには言語活動の創意工夫が必要である。つまり、昨年度までの言語活動を中心とした研究をもとに、本テーマでの授業づくりを目指すことで、国語科において育成を目指す資質・能力を身に付け、「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成する」という国語科の目標の実現に直結しているテーマであると考えられる。

② 基本方針

- ア 講話・研究授業・授業研究会を中心に研究を進める。
- イ 地区を3つの地区に分け、各地区理事は3名ずつとする。事前研・授業研の運営等は、各地区の理事が中心となって実施する。
- ウ 研究授業では、授業者は学習指導案の他に研究授業の主張点を資料として付ける。
- エ 授業研究会では、討議の柱を設け、討議の柱を中心に、実践を踏まえて意見交換をする。

③ テーマに迫る研究のあり方

ア 国語の授業のあり方について学ぶ

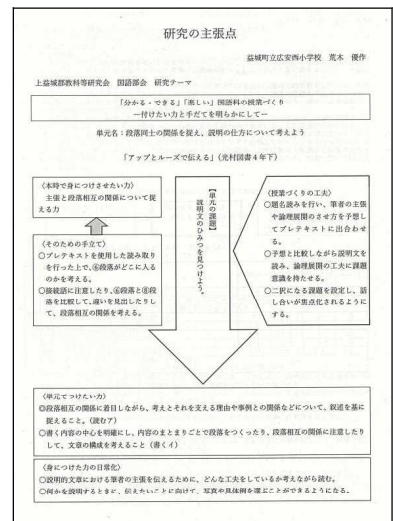
濱本竜一郎先生（上益城教育事務所指導主事）による講話から「これからの国語教育のあり方」について学んだ。

イ 研究授業の主張点

サブテーマに沿い、授業者が授業で付けたい力とその手立てを明確にするために「研究授業の主張点」を作成し、指導案とともに参加者に提示している。「研究授業の主張点」は、「単元で身に付けたい力」「本時で付けたい力」と「そのための手立て」の他「単元の課題」「授業づくりの工夫」さらに、「身に付けたい力の日常化」の項目からなり、研究授業の開始前のオリエンテーションで参加者に説明し、参観の視点を明らかにして参観できるようにした。

ウ 討議の柱を中心にした意見交換

研究授業の参観及び研究会の視点の中心となるものとして「討議の柱」を設定した。限られた時間の中で研究を進めるためには、様々な研究の視点の中から本時の授業で明らかにされる部分に焦点を当てて討議を行う必要がある。事前研究会での協議をもとに「討議の柱」を決定し授業研究会を行った。



(2) 成果と課題

① 成果

- ・ 本年度は、講話と3回の授業研究会を行った。講話からは、「これからの国語教育のあり方」という本研究テーマに迫るための基本的な考え方を会員全員で学ぶことができた。
- ・ 授業研究会では、低学年の説明文と物語文、中学年の説明文という教材を基に授業づくりやその手立てについて学ぶことができた。特に低学年では、本文を読み進めるとき、挿し絵に着目したり、動作化したりすることが読むことに苦手意識を持つ児童にとっても有効な手立てであることが授業からも、参加者の授業実践や意見交換からも明らかとなった。
- ・ 各研究会で討議の柱を中心に班別に意見交換をしたことで、討議がそれより広がりすぎたりすることなく、意見交換をすることができた。また、班別に協議したことを全体に出し合うことで、授業についての学びや手立てについて全体で共有し、深めることができた。

② 課題

- ・ 会員一人一人が、授業力を向上させるために、各地区の会員が意見を出し合いながら授業を創り上げるよう計画した。結果的には、授業者や授業者の学校や近隣の学校の会員が主に関わることも多くなり、授業者への負担も大きくなってしまった。事前研の持ち方や期日の調整等を工夫し、より多くの会員で創り上げる授業にしていく必要がある。
- ・ より多くの参加者が意見を交わし合えるように、班別協議だけでなく様々な研究会の持ち方を工夫していくが必要である。

4 実践事例

(1) 授業の概要

単元名：段落どうしの関係をとらえ、説明のしかたについて考えよう「アップとルーズで伝える」
授業者：広安西小学校 荒木 優作 教諭

- ① 本単元の目標は、「段落同士の関係を捉え、筆者の説明の工夫について自分の考えを持つことができる」である。本実践では、単元で身に付けたい力を「段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基にとらえること」と設定し、そのための手立てとして、プレテキストを使用した読み取りを行った上で、⑥段落がどこに入るのかを考える授業を行った。児童は、⑥段落をを新たに読み、接続語や段落相互の関係を考えながら、文章全体のどこに入るのか、自分の考えを持ち意見を交流していた。

授業後の授業者自評では、前時で「★段落がどこに入るのか」について一人学びを行ったが、児童の考えが授業者の予想に反して偏っていたため、授業の中でどのように児童の考えを取り上げ、繋げていくのか、悩みながら授業を行ったこと、また、授業の伝え合い・学び合う場面で、児童に腑に落ちない様子が見られ、教師のかかわりをどのように工夫すればよかったのか、ということが出された。参加者からは、「授業者は、どの根拠や意見を取り上げる意図があったのか」について質疑があり、授業者の考えを全体で確認した後、班別協議を行った。

班別協議では、「抜いた段落の入る箇所を検討することが、段落相互の関係を捉えることにつながっているか」「根拠を明示し、意図的指名で話し合いを行うことが、段落相互の関係への理解や深い学びにつながっているか」という2つの討議の柱をもとに意見交換を行った。

- ② 研究協議では、「本時での学習課題がはっきりしていた」「前単元や既習教材から児童の発言があったのがすばらしい」という学習活動や児童の様子、学習の積み重ねを評価する意見が出された一方で、「どの児童にも発言の機会があればよかった」「発言は、板書や本文を示しながら行くと、段落相互の関係を捉えることに繋がったのでは」「どこに着目させるのか、教師の切り返しの発問などがあれば、より深まったのでは」という授業改善に繋がる意見も多く出された。

金垣裕至部長からは、「提案性のある授業であり、今までの学習の積み上げが見える授業であった。抜いた段落については、事前研から様々な意見が出された。重要なことは、段落相互の関係を捉えることにつながったのか、また、児童にとって意味のある問いであったということである。『意味のある問い』とは、児童の実態や教師のねらいに合っているのか、児童が能動的に学習できるか、既習の知識を生かせるか、新しい知識や新しい見方・考え方を得られるかという視点が大切である。また、意図的指名については、教師のコーディネート力が重要であり、分散している考えを集約したり、焦点化させたりする手立てが必要となる。」という指導助言があった。

(2) 学習指導案

第4学年4組 国語科学習指導案 平成30年11月6日(火) 5校時 4年4組教室 指導者 教諭 荒木 優作	
1	単元名 段落どうしの関係をとらえ、説明のしかたについて考えよう 「アップとルーズで伝える」(光村図書 4年下)

2 単元について

(1) 単元観

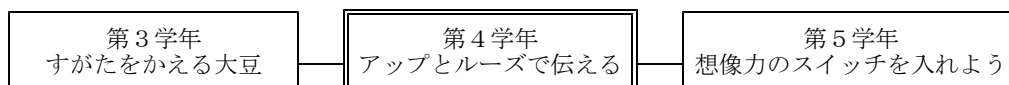
本単元では小学校学習指導要領における中学年の「C読むこと」の内容(1)「ア段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。」をねらいとしている。

児童は、これまで構成や主張に向けて事例や理由を挙げているという説明文の学習をしている。内容を読み取り、主張を理解することは多くの児童ができています。しかし、段落の役割を考えたり、段落相互の関係を自覚的に捉えたりすることは難しい。内容面の理解を充実させながら、構成や論理展開について主体的に学習ができるように授業を行いたい。

本教材は、テレビ画面における「アップ」と「ルーズ」の働きと効果について述べ、映像や写真を「アップ」で撮るか、「ルーズ」で撮るかは、目的に応じて送り手の意図によって取捨選択されていると主張している。その主張を伝えるために、段落に応じた挿絵を活用したり、対比的な表現によって「アップ」「ルーズ」の違いや、それぞれの長所・短所を分かりやすく説明したりする工夫を行っている。また、⑥段落で一度まとめたから、⑦段落で事例を追加して⑧段落の主張に繋げる展開はこれまでになかった論理展開である。この⑥⑦⑧段落の関係に児童のつまづきが予想されるため、授業においては工夫が必要である。

(2) 系統観

国語科における本単元の系統的な位置付けは、次のとおりである。



(3) 本単元に関する児童の実態は次のとおりである。

- ・ アンケートの結果から、説明文を読むことについて学習が厳しい児童ほど、説明文に苦手意識を持つ傾向が見られた。長い文章が苦手な児童もおり、内容理解を促す工夫が必要である。
- ・ 進んで発表ができない児童が多かった。発問の内容を工夫して確実に自分の意見を持たせたり、発表しやすい雰囲気づくりを行ったりしていく必要がある。
- ・ 主張の内容や段落の役割は多くの児童が理解できているが、まだまだ苦手意識を持つ児童もいる。また、説明文でどんなことを学んだのかを言えない児童が多く、振り返りの充実の必要性を強く感じた。
- ・ 挿絵と文章を対応して読み取り、内容面の理解を促す。(視覚化)
- ・ 話し合いでは、根拠を明確にしてどこから考えたのか全員が分かるようにする。(共有化)

3 単元の目標

段落同士の関係を捉え、筆者の説明の工夫について自分の考えを持つことができる。

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	・ 文章を読んで説明の工夫を探したり、見つけた工夫を生かして文章を書いたりしようとしている。
書く能力	・ 既習事項を思い出し、説明文の内容を予想して書いている。 ・ 段落相互の関係を捉え、文章構造図を書くことができる。
読む能力	・ 写真と文章を対応させながら読み取っている。 ・ 対比しながら述べる説明の仕方や、事例を一度まとめてからさらに事例を追加する論理展開を捉え、文章全体の構成と段落相互の関係を理解している。
言語についての知識・理解 ・ 技能	・ 指示語や接続語が、文や段落の関係を示す手がかりになることを理解している。 ・ 段落の役割を理解している。

5 指導計画(8時間扱い・本時6時間目)



次	時	学習活動	評価基準	備考
一	1	3年生に向けて、写真を使ったクラブ活動の紹介文を書くために、説明文のひみつを見つけることを知る。題名と主張と挿絵をもとに、内容と説明の仕方を予想する。	【関心・意欲・態度】クラブ紹介文を書くために、どんな説明文のひみつがあるか考えながら、説明の仕方を予想している。	態度観察
二	2	「アップとルーズの伝え方」のプレテキスト(⑥段落を抜いた文章)を読む。自分たちの予想と比較しながら、問いを読み取る。(①②③段落)	【読むこと】アップとルーズについて理解するとともに、どんな問いが出されているのかを読み取ることができる。	発表 ノート
	3	問いに対してどんな答えがあるのかを読み取る。(④⑤段落)	【読むこと】問いに対して、アップとルーズでそれぞれ伝えられることと伝えられないことがあることが分かる。	発表 ノート
	4	ルーズ、アップ、アップ、ルーズという説明の順序について考え、対比の工夫について理解する。	【読むこと】対比的に説明することのよさを理解している。	発表 ノート

	5	⑥段落を新たに読み、文章全体のどこに入るのかを考え、段落相互の関係を考える。	【読むこと】⑥段落について、段落相互をつなげながら、自分なりに段落の役割を考慮することができる。	発表 ノート
	6	⑥段落がどこに入るのかを話し合い、段落相互の関係を読み取る	【読むこと】主張を伝えるために、⑥段落で一度事例をまとめていることを理解する。	発表 ノート
	7	説明文構造図を書き、筆者の説明の工夫を考える。	【読むこと】文章構造図を書き、対比や事例のまとめの役割を確認するとともに、⑦段落で事例を追加していることを理解する。	発表 ノート
三	8	もう一度主張を確かめ、筆者の説明の工夫について評価する。	【読むこと】筆者の説明の工夫を自分の言葉でまとめる。	発表 ノート

6 本時の学習（6／8時）

(1) 目標 ⑥段落について、文章のどこに入るのかについて考えることを通して、接続語の役割や段落相互の関係について考えることができる。【読む能力】

(2) 展開

過程	学 習 活 動	形態	○教師の支援 ・予想される児童の反応	評価	備考
見 通 す 5 分	1 本時のめあてを確認する。 (1) 前時の振り返りをする。 (2) 本時の学習課題を知る。 めあて：★段落は、どの段落の後に入るのか、考えよう	全	○ICTや掲示物にこれまで学習した段落相互の関係をまとめ、活用する。		掲示物の活用
考 え る 5 分	2 ★段落（⑥段落）を音読する。 3 自分の考えを確認する。	全	徹底指導のポイント ◎前時までに自分の考えをワークシートに書かせ、指名計画を立てる。 ○考えが書けていない児童には、個別に支援を行う。		ワークシート
伝 え 合 い ・ 学 び あ う 25 分	4 ★段落はどこに入るのかを話し合う。 (1) 立場を明らかにする。 (2) それぞれの立場から意見を出す。 (3) 質問や反対意見を出す。 (4) 教科書を音読して確かめる。  	全	○少数派の意見から発表させ、多数派の人たちに説得しようとする相手意識を持たせる。 ・「このように」でまとめる言葉があるから、⑧段落の後に入ると思います。 ・⑤段落の後だと思えます。わけは、「アップとルーズには、それぞれ伝えられることと伝えられないことがあります」と書いてあるので、④⑤段落をまとめているからです。 ○⑧段落と似たようなことを言っているから、★段落が主張で最後に来たらおかしいですか。 ・★段落は「アップとルーズを切りかえながら放送しています」とあって、⑦段落は新聞のことを言っているから、主張になると⑦段落が言えなくなるからおかしいと思えます。 ・★段落は主張じゃなくて、④⑤の具体例のまとめになると思えます 能動型学習のポイント ◎「このように」という接続語がどの段落をまとめているのかを考えさせたり、⑧段落と比較して、主張はどちらかを考えさせたりする。 A 基準：★段落がどこに入るのか、接続語に注目したり、主張との関係を踏まえたりして考えている。 【読む能力】段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係について、叙述を基に捉えること < Bに達していない児童への手立て > ペアトークを入れて相互交流を促したり、既習内容を振り返ったりするようにする。		
確 か め る 10 分	5 本時の学習をまとめる。 (1) 学習して分かったことを振り返る。 まとめ：★段落は、④⑤段落のテレビの具体例をまとめているので⑤段落の後に入る。 (2) 次時の学習を確認する。	個 全	○質問、気づき、納得、よさを観点に振り返りを行う。		